

発刊にあたって

平成17年2月16日、140カ国と欧州共同体が締結した京都議定書が発効し、我が国では、温室効果ガスの削減目標として、平成20年から平成24年までの排出量を、基準年である平成2年の水準と比べて6%削減することを約束しています。この約束の達成に向けては、6%のうち3.9%に相当する炭素量1,300万トン森林による吸収量で確保することを目標としています。地球温暖化対策において、森林は最も重要な役割を担うこととなっています。

そこで、地球環境問題と深く関わりがあるとされる紫外線について、「信州の紫外線環境と植物生産」と題し、信州大学農学部鈴木純助教授、森林総合研究所関西支所岡野通明チーム長両氏に基礎情報を取りまとめていただきました。

地球温暖化対策における重要な森林をこれからも健全な姿で守り、次世代へと引き継いでいくことが大切であります。

森林・林業ならびに森林環境学習に携わる指導者、学生の皆さんなど、多くの皆様にご活用いただければ、たいへん幸甚の極みでございます。

平成19年（2007年）年2月

社団法人 長野県林業コンサルタント協会

理事長 宮原 毅